

えほんのへやだより No.3



わたしの かみの

金子 みすゞ

わたしの かみの ひかるのは、
いつも かあさま なるから。

わたしの おはなの ひくいのは、
いつも わたしが ならずから。

わたしの エプロンの しるいのは、
いつも かあさま あらうから。

わたしの おいろの くるいのは、
わたしが いりまめ たべるから。

『金子みすゞ童謡詩集』

おひさん、あめさん』

(JICA出版局)より

1 こどもの読書週間 おはなし会スペシャルが開催されました



4月23日から5月12日までを『こどもの読書週間』といいます。

宗像市民図書館でも毎年この期間にあわせて、えほんのへやでボランティアによるおはなし会を開催しています。今年は、4月28日に「お話げんかい」と「おはなし あのね！」の2団体がおはなし会を行いました。絵本の読み聞かせ、パネルシアター、工作(こいのぼり作り)そしておまけのマジックなど、約50組の親子が楽しみました。



大型絵本「わにわにのおふる」の読み聞かせの様子。



折り紙で、こいのぼりをつくりました。

2 平成26年度 えほんのへや貸出ベスト5



昨年度1年間に、えほんのへやで貸出された絵本ベスト5のご紹介です。()内は貸出回数

1位



(99回)
『がたんごとん
がたんごとん』
安西水丸/作
福音館書店

2位



(87回)
『くっついた』
三浦太郎/作
こぐま社

3位



(85回)
『いないいない
ばあ』
松谷みよ子/文
瀬川康男/絵
童心社

3位



(85回)
『だるまさんの』
かがくいひろし/作
ブロンズ新社

4位



(81回)
『びょーん』
まつおかたつひで/作
ポプラ社

5位



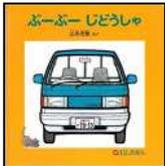
(75回)
『バスがきました』
三浦太郎/作
童心社



3 『のりもの絵本』の紹介



「のりもの絵本コーナー」の絵本は、ちいさな子どもたちに大人気。バス・電車・働く車、そして、とうてい自分にはできないことを軽々とやってくれる工事車両に好奇心やあこがれがいっぱい！ のりものそのものが好きな子、大好きなのりものが活躍する物語に入り込んで楽しんでいる子、いずれにしても、子どもたちはのりもの絵本に夢中です。



『ぶーぶーじどうしゃ』

山本忠敬 さく
福音館書店 (0・1・2 えほん)

身近な自動車正面を向いて描かれていて、「ぶーぶー」と赤ちゃんに話しかけるようで楽しい絵本です。



『でんしゃ』

パイロン・パートン さく・え
金の星社

お客さんをいっぱい乗せて、電車は線路・鉄橋・トンネル・踏切と夜になっても走り続けます。色鮮やかな小型絵本です。



『バルンくん』

こもりまこと さく
福音館書店 (0・1・2 えほん)

バルバルバルーン、元気に走りぬけていくバルンくんは、子どもそのもの。子どもたちは、バルンくんになって楽しめます。『バルンくんとともだち』『バルンくんとおたすけ3きょうだい』も読んでね！



『でんしゃでいこう』

でんしゃでかえろう』

間瀬なおかた さく・え

ひさかたチャイルド/チャイルド本社

ドンドンドンゴー トンネルを抜けた時の景色がすばらしい。前から読んでも後ろから読んでも楽しめます。



『のろまなローラー』

小出正吾 さく 山本忠敬 え
福音館書店

ゆっくり走るローラーは、速い車にゴロゴロと追い越されていきますが、それでもでこぼこ道を平らにします。



『しゅっぱつ しんこう!』

山本忠敬 さく
福音館書店

母親と女の子が、特急列車・急行列車・普通列車と乗りかえ、おじいちゃんの家に行くおはなしです。

4 読書相談員コーナー



読書相談員の吉田です。みなさんからよくあるご質問を紹介します。

Q: いろいろな絵本を子どもに読んであげたいのですが、同じ絵本ばかり「読んで！」と持ってきます。

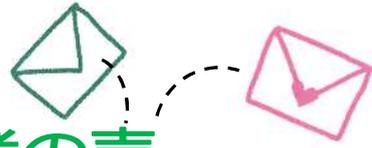
A: その絵本の世界をたっぷり楽しみたいのですね。子どもは、「ほら、こうなる」「ほら、こうなった」と絵本を楽しみます。何度も読んでもらっているうちに、いろいろな発見をしたり好きな絵や言葉に出合ってすっかり覚えてしまいます。ひとりでページをめくりながら、お母さんの言葉とそっくり読んでいる光景に出会うこともあります。また、同じページでお母さんがいつも同じ言葉でおはなししてくれることも嬉しいのですよ。

「読んで！」と求められた時は、お子さんが十分満足するまで読んであげてください。



5

おはなし会参加者の声



娘が、わらべうたが大好きになりました。家でもいっしょに歌って遊ぶとよろこびます。絵本も大好きになりました。

お友達にも会えるので、毎週楽しみに参加しています。

Yちゃんのおかあさん Sさん

おはなし会の楽しみは、たくさんのかわいい瞳に出会えることです。子どもたちは、わらべうたに体をゆすったり、小さい指をいっしょうけんめい動かしてくれます。ちっちゃな笑顔に大きな力をもらっています。

ボランティア Nさん



ととけっこう

よがあげた
まめでっぼう
おきてきな

娘が5～6か月の頃から参加しています。はじめはただ見ていただけだったのが、今ではひとりで楽しそうに歌にあわせて手あそびなどをしている姿を見て、成長を感じています。わらべうたを通じていろいろなことができるようになりました。最初はこわくて泣いていた「おんぶ」も何回かしているうちにできるようになり、今では大好きです。

その成長を、スタッフの皆さんも一緒に感じてくださって「大きくなったね、上手にできるようになったね」と声をかけていただき、すごく嬉しくはげみにもなっています。

娘のお気に入りのわらべうたは「ととけっこうよがあげた」と「ちびすけどっこい」です。「ととけっこう」のうたで毎朝娘を起こし、ねぼけながらも笑顔でバァ～ッとしてくれます。「ちびすけどっこい」は、上手にシコをふんでパパと楽しそうにすもうをとっています。

Mちゃんのおかあさん Rさん



ちびすけどっこい

はだかでこい
ふんどしかついで
はだかでこい

毎週子どもたちと顔を合わせるのが楽しみです。手あそびやわらべうたを交えて4～5冊の絵本を読んでいます。あたたかい声で言葉を大切に伝えることを心がけています。

美しい絵と選び抜かれた言葉で作られた絵本を、心をこめて読むことが、子どもたちにとってよい絵本との出会いになることを願っています。

子どもたちの成長ぶりを直に見られることは、読み手冥利につきます。

ボランティア Kさん

